

# 製本のススメ

Vol. 132

アジサイも見頃です。今年は早くも水不足！三多摩地区は、まだ大丈夫そうですが、やはり節水は心がけたいものです。おいしい食卓のためにも雨が降ってこそですね。

今回は**綴りの数字**の話し

高級な本と丈夫さを必要とする冊子類は、糸で縫います。合本用の綴り方と書籍の綴り方 またノートの綴り方など用途によって様々な綴り方法がありますが、今回は書籍の綴りについて 数字で追いかけてみます。

基本的に 綴りは折り丁一つの厚みが0.5ミリ程度は確保されなくてはなりません。

## それは何故か？

糸綴りは、一針ずつ綴って結びます。つまり結び目ができるわけです。この結び目の大きさが、約0.40ミリ。この結び目がクセモノで、以後の製本作業に大きく影響する事になります。

実は意外と知られていませんが、綴り作業は**折丁を縫いつなげた後が大切！**綴り後**【均・ならし】**という加工があります。ならし工程は、綴り終わった冊子の喉部分をプレスすることで、結び目をつぶし本文と均す事にあります。均す事で折丁同士の隙間や針穴の隙間を埋めブロッキング等の糊事故を防ぎ、上製本の丸背においては綺麗な弧を作り出すために不可欠な工程です。この時のプレス圧は相当なもので、本文用紙も一緒にプレスされるため、0.1ミリ程度は圧縮(薄く)されます。糸の結び目はこの折り丁の厚みに吸収されないとならないため、結果的に「本文折丁の厚みは0.5」となるわけです。次回は、もう一步踏み込んだ綴りの数字について考えましょう♪



## Tea break

(ヒトの脳 後編)さて、ヒトの脳みそは、失敗して痛い思いをするほど、寝ている間に失敗に使われた関連回路に電気信号を流れにくくし、反対に嬉しい思いをするとこの逆の事が起こります。こうして日々失敗しにくく成功しやすい脳に成長するそうで、脳の出力性能(本質的な正解を瞬時に出す力)を上げるには失敗を重ね、信号が行き難い細胞や神経回路ができなくてはなりません。当然ながら出力性能が上がってくると、物忘れが始まる。つまり物忘れは老化でなく進化です！そして56歳前後に、脳の出力性能は最大に達します！さらに本質の回路が研ぎ澄まされる60代は、旅と習い事の好機とも言われています。つまり、人生56歳からが本番ってことです！

弊社 HP は [www.isekiseihon.com](http://www.isekiseihon.com)

facebook は 「井関製本の日々」

by (株) 井関製本